

平成23年度宮古群島病害虫発生予報第11号(2月予報)

I 2月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	30	20
平年並	40	30	40
低い(少ない)	40	40	40

(平成24年1月27日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	18.3	20.9	16.2	141.3	82.6

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

II 1月の発生予報および防除上の注意事項

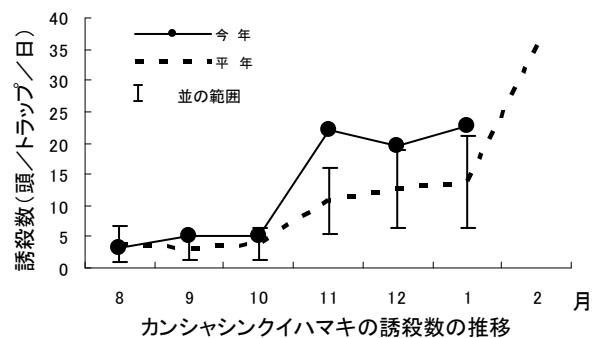
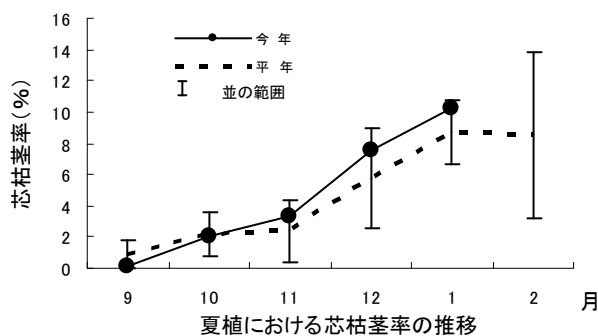
1 さとうきび

(1) メイチュウ類

発生程度 : やや多

予報の根拠

- a 1月中旬の調査の結果、夏植圃場での芯枯茎率は、10.3%(平年8.6%)と平年よりやや高かった。
- b 1月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は、22.6頭(前年9.5頭、平年13.7頭)と平年よりやや多かった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- c 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、食入初期の防除を徹底する。
- d 夏植えの培土時や春植えの植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を施用する。
- e 平成23年度病害虫発生予察注意報第2号(平成23年12月28日付)参照。

- コガネムシ類幼虫(アオドウガネ・ケブカアカチャコガネ)の防除対策
 - a 巡回調査の結果、一部の圃場でコガネムシ類による立枯れがみられた。
 - b ケブカアカチャコガネは、耕耘(ロータリ、砕土)によって株元にいる幼虫の75%程度を殺傷できることから、収穫後は速やかに耕耘し、幼虫密度の低減を図る。
 - c ケブカアカチャコガネ幼虫は、3月下旬頃から地中深く潜るため、耕耘による防除は本種が地表近くにいる3月中旬までに行うのが効果的である。
- 収穫後の圃場におけるカンシャコバナネナガカメムシの防除対策
 - a 収穫の際に地上に落下した卵や越冬成虫は地表や株元に残り、収穫後の株から伸びた幼茎などで生育する。
 - b 卵の死亡率を高め、第1世代の発生を抑制するため、収穫後は全面および畦間の耕耘を速やかに行う。

2 マンゴー

- 炭疽病の防除対策
 - a 1月中旬の調査の結果、一部の施設で炭疽病の発生がみられた。
 - b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、今後袋がけ前までの防除対策が重要である。
 - c 罹病した新鞘、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
 - d 花芽分化～開花期には予防効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。
- チャノキイロアザミウマの防除対策
 - a 1月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0頭、平年0.5頭)であった。
 - b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見、早期防除に努める。
 - c 混合花の新葉や不用な新鞘は本種の発生を助長するので、早い時期に摘葉する。
 - d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
 - e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

3 かぼちゃ

- モザイク病の防除対策
 - a 1月下旬の調査の結果、一部の圃場で発生がみられた。
 - b 着果前の発病株は、抜き取って圃場外に持ち出し処分する。また健全株への感染を防ぐため、抜き取りは他の管理作業の後に行う。
 - c 本病の感染源および媒介虫であるアブラムシ類の発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
 - d アブラムシ類の防除を徹底する。
 - e 収穫後の残渣は発生源となるので速やかに片づける。
- 細菌性病害の防除対策
 - a 株元の老葉を除去し、透光通風をよくする。
 - b 今後の気象条件により、斑点細菌病や褐斑細菌病、葉柄腐敗症などの細菌性病害の発生が助長される場合があるので、防風垣は収穫時まで残し、予防散布と初期防除に努める。
- うどんこ病の防除対策
 - a 株元の老葉を除去し、透光通風をよくする。
 - b 着果後は防除を徹底し、収穫時までできるだけ多くの健全葉を確保する。

4 とうがん(施設)

- ミナミキイロアザミウマの防除対策
 - a 1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0頭(前年0.1頭)であった。
 - b 発生源となる不用な下葉や圃場内外の雑草を除去する。
 - c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

5 にかうり（施設）

- うどんこ病の防除対策
 - a 1月下旬の調査の結果、うどんこ病の発病葉率は1.8%（前年24.6%）、発病度は0.4（前年6.5）であった。
 - b 株元の不要な下葉や被害葉は除去し、生育に応じて老葉などを摘葉して、透光通風をよくする。
 - c 摘葉残渣は、ビニール袋に入れるなどして施設外へ持ち出し処分する。